

佐賀県立博物館報

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 0952(24)3947



宇木汲田遺跡出土銅劍・銅矛

佐賀県唐津市鏡太字宇木にある宇木汲田遺跡は、宇木川の上流左岸低段丘上の水田中にある。

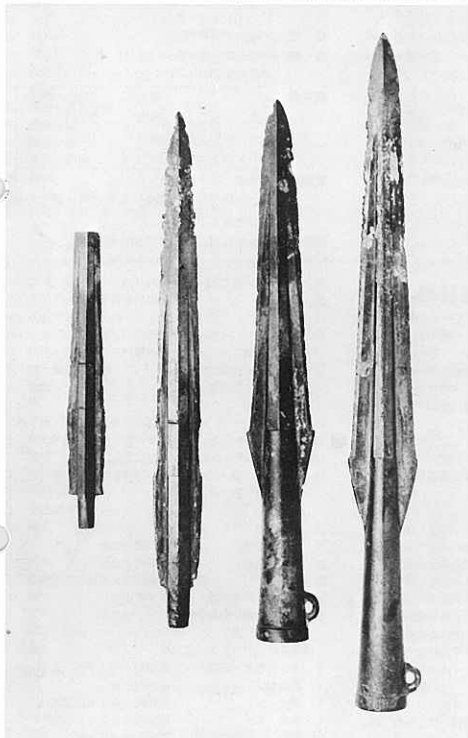
昭和5年、一帯の水田を整備中に突椹から勾玉・管玉とともに銅矛2本、銅劍2本が出土した。

銅矛はともに鋭利な鋒と柄をさしこむ頑健な袋部とからなつた実用の利器であり、精巧な鍛造技術の特徴などから朝鮮半島で製作されたものである。

また銅劍は、鋒が茎の近くまで研ぎだされ、脊の幅に對して刃幅が狭い細身のものであるが、この種のものも朝鮮青銅器文化後期のものに類例があり、さきの銅矛とともに我が国へ輸入されたものである。

汲田遺跡は、その後昭和31年と40年の二度にわたり発掘調査が実施され、弥生時代中期頃の突椹遺跡であることが判明し、更に13本の青銅利器と多鈕細文鏡・銅劍・玉類など豊富な遺物が出土して、ここが大陸文化流入の門戸として重要な位置を占めていたことを物語っている。

銅矛 全長 四〇・七 cm 全長 三二・六 cm
 銅劍 全長 三一・二 cm 全長 一八・〇 cm



目次

- 宇木汲田遺跡出土銅劍・銅矛…………… 1
- 「古代九州の遺宝展覧・玉・劍」開催要項・出品予定主要資料目録…………… 2～4
- 出品主要資料…………… 5～7
- 年報正誤表・博物館日誌・人事異動…………… 8

「古代九州の遺宝展—鏡・玉・剣」開催要項

名称 古代九州の遺宝展—鏡・玉・剣
主旨 古代社会では権力の象徴として、鏡・玉・剣があげられ、祭器として最も重要な役割を果たしていた。

もともと金属器がわが国に伝えられたのは、弥生時代前期（紀元前約2世紀）といわれ、武器としての剣・戈・矛や呪具としての鏡であった。これらの金属器は主に青銅製であって、やがて我が国でも製作されるようになった。一方、技術の進歩と鉄の普及とともに利器は鉄製品となり、青銅器は祭器化していった。

また、玉類も装身用だけにとどまらず、神への奉獻品として、大きな役割を持つようになった。九州は大陸と一衣帯水の間にあり、早くから青銅器が伝えられ、また仿製品の出土も多い。

このたび当館では、肥前を中心に九州及び西

日本地域から出土したこれらの鏡・玉・剣類を展覧し、その機能や形態を集成し、さらに大陸ならびに大和との文化の交流を追求しようとするものである。

主催 佐賀県教育委員会
佐賀県立博物館
後援 文化庁・九州各県教育委員会・九州博物館協議会
会場 佐賀県立博物館
会期 昭和54年10月6日～11月4日
休館日10月8・15・22・23・29日

観覧料	個人		団体 (20名以上)
	大人	小学生	
大人	300円	200円	
大・高生	200円	100円	
中・小生	100円	50円	

講演会等の開催

この特別展の期間中、展示資料に関する講演会を実施する。

図録発行 展示資料に関する図録を発行する。

出品予定主要資料目録

弥生時代			
長崎県			
	資料名	出土地	
1	銅矛	下県郡豊玉村佐志賀黒島	
2	銅矛	〃 豊玉村大字大綱	
3	双獣付十字形柄頭金具・粟粒文十字形柄頭金具・靴先状金具・馬鐙・貨泉・銅剣・銅矛・鉄剣	〃 豊玉村佐保シゲノダン	
4	有孔笠頭形銅器・有孔十字形金具・角形銅器・靴先金具・十字形柄頭金具・双管状金具・鉏状金具・管玉小玉	〃 豊玉村佐保原唐崎	
5	巴形銅器・馬鐙・銅鏡・指輪	〃 豊玉村佐保ソウダイ	
6	銅剣・銅矛・玉類	島原市三会町景華園	
7	銅剣	諫早市立石町 諫早農高内	
8	銅矛・銅戈	上県郡峰村三根	
9	鏡・玉・銅剣	芦辺町深江原の辻	
佐賀県			
1	触角式柄頭銅剣・銅矛	唐津市柏崎	
2	日光鏡	〃 〃 田島	
3	銅矛鋳型破片	〃 〃 大深田	
4	銅戈	〃 鏡字谷口	
5	銅矛・銅戈・管玉	〃 久里 久里小学校内	
6	多鈕細文鏡・銅鏡・銅戈・銅矛・銅剣・鉄斧・鉄鏃・鉈・玉類・銅剣	〃 宇木浪田	
7	有柄銅剣	〃 宇木鶴崎	
8	銅剣	〃 久里石崎	
福岡県			
1	ガラス製鏡・玉類	前原町大字二子塚	
2	銅戈鋳型	前原町三雲	
3	銅戈	糸田町大字下糸田字宮山	
4	銅剣・銅矛	福岡市博多区板付田端	
5	銅矛	福岡市博多区安徳字原田	
6	銅戈	岡垣町山田	
7	銅剣	伝岡垣町	
8	鉄矛	岡垣町元松原	
9	銅剣・鋳型破片・鏡片・銅戈・鉄刀	春日市須玖岡本	
10	ガラス勾玉	春日市須玖	
11	玉類	春日市須玖 須玖遺跡	

12	銅戈	春日市小倉・小倉新池
13	銅戈	春日市千歲町
14	銅劍	春日市春日
15	銅戈鋤型	春日市大南 大南遺跡
16	磨製石鏃	春日市伯玄社 伯玄社遺跡
17	四禽文鏡	小倉南区大字長行字郷屋
18	連弧文鏡・石戈・銅矛 ・勾玉	八幡西区大字馬場山

19	銅戈・銅矛	福岡市博多区住吉・住吉神社
20	銅矛	福岡市博多区唐泊
21	銅矛	久留米市荒木町藤田字蒲山
22	銅矛	久留米市荒木町荒木字鬼木
23	鉄刀子	久留米市師井町字狼山
24	銅矛	吉井町富水字弦掛
25	銅戈・連弧文鏡	吉井町清宗
26	連弧文鏡	吉井町古畑
27	連弧文鏡	吉井町鳥越
28	連弧文鏡	田主丸町大井
29	銅戈	小都市若田
30	石劍	浮羽郡内出土
31	鉄刀・連弧文鏡・把頭 觥	行橋市前田山

32	連弧文鏡	犀川町統命院
33	銅戈鋤型	筑紫野市大字永岡
34	鉄戈・鉄矛	筑紫野市武蔵道場山
35	連弧文鏡	湘高町小川
36	連弧文鏡	船屋町酒殿
37	ガラス勾玉鋤型	春日市弥永原
38	鉄戈・鉄劍	春日市上白水門田遺跡
39	銅戈鋤型	福岡市大字多々良字大牟田
40	銅劍 //	//

熊本県

1	銅矛	植木町今古閑・轟
2	銅戈	大津町真木字西洋留
3	方格規矩鏡片	山鹿市大道
4	巴形銅器	// 方保田
5	連弧文鏡	//
6	銅矛	鹿本町御宇多

大分県

1	銅劍	大分市浜
2	銅矛	白杵市下北津留・坊主山
3	銅矛	安心院町大字且尾字谷迫
4	銅矛・銅戈	宇佐市(宇佐佐宮)
5	銅戈	豊後高田市美和殿屋敷

鹿児島県

1	銅矛	有明町野井倉字下原
---	----	-----------

兵庫県

1	銅鐸	神戸市灘区本山町小路字箱杉ヶ原
---	----	-----------------

徳島県

1	銅鐸	阿南市下大野町畑田
---	----	-----------

三重県

1	銅鐸形土製器	鈴鹿市上箕田町字紙園田
---	--------	-------------

京都府

1	流水文銅鐸	加悦町明石・須代神社境内
---	-------	--------------

1	袈裟禪文銅鐸	出土地不明
---	--------	-------

古墳時代

長崎県

1	鸞鳳鏡・玉類 鉄鏡	上県郡上県町大字志多留
2	玉類	佐世保市萩坂町城
3	歇帶鏡・玉類	平戸市大久保町田助

佐賀県

1	四神鏡・玉類	唐津市鏡字今屋敷
2	三角縁神獸鏡 変形二 獸鏡・変形四獸鏡・玉 類	浜玉町大字谷口字谷中
3	金環・玉類	// 字仁田
4	環頭大刀把頭・六乳鏡 ・連弧文鏡・玉類	// 大字南山字玉島
5	三角縁神獸鏡	伊万里市二里町大字李路寺
6	玉類	// 東山代町日尾
7	鉄刀・銅劍・玉類	神埼町仁比山
8	玉類	大和町都波城字高畑
9	玉類	鹿島市東塩屋
10	銅鏡	上峰村切通
11	連弧文鏡	有明町稲佐神社
12	珠文鏡	鳥栖市旭町

福岡県

1	重圓文鏡・玉類	粕原町大字仲原字鬼の首
2	四禽四乳鏡・玉類	菊田町大字与原郷所山
3	方格規矩四神鏡・連弧 文鏡・三角縁神獸鏡	二丈町田中
4	鉄挺	小都市三沢花鏡 花そげ2号墳
5	鹿角刀装具・鉄刀・刀 子	京塚古墳
6	素環頭太刀・鉄劍・三 角縁神獸鏡・鉄鏃	福岡市西区徳永 若八幡古墳
7	鉄刀	鈴ヶ山2号墳
8	玉類	向山古墳
9	玉類	津屋崎町勝浦 勝浦古墳群(41号)
10	鉄劍・鉄刀	津屋崎町奴山 奴山5号墳
11	二神二獸鏡・六獸鏡	福岡市西区大字周船寺
12	銀製矛頭・鉄刀 変形 文鏡・連弧文鏡	行橋市竹並 竹並遺跡
13	鉄刀・刀子・連弧文鏡 ・玉類・琴柱形石製品	志免町田富 七夕池古墳
14	三角縁神獸鏡	菊田町南原 石塚山古墳
15	三角縁神獸鏡	筑紫野市武蔵原口 原口古墳
16	神人鹿虎鏡・連弧文鏡 ・銅鏃	大牟田市黄金町1丁目 潜塚古墳
17	鹿角製刀装具	大牟田市大字宮崎
18	環頭太刀・四乳鏡	広川町釘崎
19	鏡片・鉄刀・玉類	八女市川大
20	歇首鏡・玉類・鉄矛	八女市北田形
21	仿製鏡・玉類	小倉北区今町2丁目
22	双竜環頭柄頭	// 南区長行
23	変形文鏡	久留米市上津町字本山
24	乳文鏡	// 荒木町荒木字鷲塚
25	玉類	久留米市国分町
26	四獸鏡・玉類	// 京町字丁目

27	三角縁神獸鏡	不明	高良大社蔵	京都府		
28	方格規矩鏡	遠賀町高家		1	三角縁神獸鏡	山城町椿井大塚山
29	方格規矩鏡	田主丸町大井		奈良県		
30	玉類	耳納山麓一帯		1	直弧文鏡	広陵町大字大塚字新山
31	字持勾玉	宝満川出土		2	三角縁三神二獸博山師鏡・四獸鏡・六獸鏡・應竜鏡・連弧文鏡・	河合町大字佐味田字貝吹(具吹古墳)
32	五鈴鏡	浮羽町朝日		3	神人車馬画像鏡・六獸鏡・應竜鏡・連弧文鏡・	// (宝塚古墳)
33	連弧文鏡	筑紫郡市武蔵八隈	八隈古墳 8号	4	二神四獸鏡・四獸鏡・連弧文鏡	奈良市佐紀町字衛門戸(丸塚古墳)
34	三景瓊柄頭	太宰府町劍塚	劍塚1号	5	花形飾環頭太刀・素環頭太刀・鉄剣・鉄鏡・鋼鏡・巴形銅器・石鑢	天理市樺本町(大和東大寺古墳)
35	珠文鏡	太宰府町水城成屋形		愛知県		
36	鉄剣・鏡・鉄鏡・管玉	犀川町上本庄梁山		1	三角縁神獸鏡・連弧文鏡・獸文鏡・鉄剣・鉄刀・鉄矛・鉄鏡・玉類	名古屋市北区柳町(白山藪古墳)
37	鉄刀・刀子	吉賀町花見	花見古墳	中国		
38	画文帯神獸鏡	穂波町	山ノ神古墳		資料名	時代
39	烏文鏡	福岡市西区重留		1	方格規矩渦文蓋金四神光	前漢
40	鉄刀・鉄矛	苅田町	香塚古墳	2	方格規矩四神日有蓋鏡	//
41	珠文鏡・獸形鏡・素環頭刀子・鉄刀	犀川町長迫	長迫古墳	3	方格四乳葉文鏡	//
42	三角縁神獸鏡片・方格規矩鏡・連弧文鏡・玉類	福岡市南区老司	老司古墳	4	連弧文精白鏡	//
43	内行花文鏡・方格規矩鏡・三角縁神獸鏡・麗麗鏡・獸帯鏡・変形文鏡・乳文鏡・雙鳳鏡・勾玉・碧玉管玉・ガラス製切子玉・水晶製切子玉・水晶製三輪玉・ガラス製小玉・滑石製小玉・滑石製字持勾玉	宗像郡大島村神の島		5	應竜鏡	//
熊本県				6	方格規矩四神新有尚方鏡	新
1	連弧文鏡・六獸鏡・玉類	八代市岡町岡谷川		7	方格規矩四神新有善銅鏡	//
2	玉類	植木町豊田字加茂		8	方格規矩四神新有渚治鏡	//
3	三角縁神獸鏡片	伝芦北郡内		9	方格規矩四神漢有善銅鏡	前漢末～後漢初
4	金製垂飾付耳飾・金環・玉類	玉名市繁根木字北		10	方格規矩四神鏡	新～後漢初
5	連弧文鏡	山鹿市方保田		11	方格規矩四神鏡	後漢
6	玉類	// 石		12	連弧文鏡	//
7	珠文鏡	鹿央町郷原		13	雙鳳鏡	//
8	連弧文鏡	西合志町		14	四乳飛禽文鏡	//
9	連弧文鏡・方格規矩鏡・鳥獸鏡・車輪石・鉄剣・鉄刀・玉類	土市市松山町字野田		15	盤竜鏡	//
大分県				16	三角縁半内彫獸帯鏡	後漢～三国
1	四獸鏡・玉類・鏡片	大田村大字上香拱字小川原		17	建安十年重列神獸鏡	// (A D 205)
2	五獸鏡・玉類	日田市報恩寺		18	建武口年半円方形帯神獸鏡	東晋 (A D 317～318)
3	鉄刀	// 三芳字東寺		19	永安四年神獸鏡	呉 (A D 261)
4	六獸鏡・珠文鏡	// 石松町有田		20	永安五年 //	// (A D 262)
5	四神四獸鏡・玉類	宇佐市大字葛原		21	桃氏銅剣	戦国
岡山県				22	銅剣	戦国～漢
1	五獸鏡(2)	岡山市新庄下 (千足古墳)		23	北方系銅剣	//
群馬県				24	青銅環頭刀	漢
1	金錯銘直刀身	伝群馬県		25	銀象嵌青銅環頭刀	//
2	三角縁神獸鏡	//		26	鏡粒文鏡	戦国
3	銅劍	// 瀧川村八幡原		27	素文鏡	//
				28	銅文	西周～戦国
				29	銅矛	殷～戦国
				資料名をゴシック体活字で表わしたものは 国宝、国指定重要文化財である。		

出品主要資料



桃氏の剣 長さ 51.5cm 戦国時代 中国

中国の春秋戦国時代の銅剣の主流は「桃氏の剣」と称される柄に突起のある剣である。我が国に輸入された朝鮮式の剣とは形がやや異なる。



草葉文鏡 面径 11.0cm 前漢 出土地不明

中国の鏡が我が国に初めて輸入されたものは前漢（前208～8年）時代で、この鏡も前漢の鏡の1つである。このころの鏡が佐賀県では三津永田遺跡・二塚山遺跡・上志波屋遺跡・枕島山遺跡・柏崎田島遺跡などから出土している。



連弧文清白鏡 面径 16cm 弥生時代後期（前漢時代作）佐賀県神埼郡東脊振村

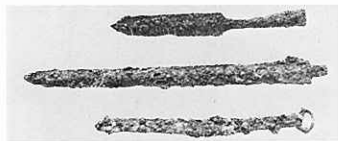
この鏡は、前漢後期に作られたものであるが、北九州の弥生人はこれを輸入し、宝器とした。



流雲文緑方格規矩四神鏡（重要文化財）面径 23.2cm

弥生時代後期（後漢時代作）佐賀県唐津市桜馬場

弥生時代後期には後漢鏡も輸入された。鈕のまわりに方形の枠をもうけ、その外側にT・L・Vの文字があり、その間に青龍・白虎・朱雀・玄武の四神と禽獣や神仙があらわされている。



鉄矛・鉄剣・素環刀 矛 32.9cm 剣 51.2cm 刀 44.0cm

弥生時代後期 佐賀県神埼郡東脊振村

弥生人の最初の武器は青銅製品であったが、鉄が普及すると武器も鉄製になった。弥生時代の終わり頃には鉄製武器がかなり普及したと思われる。

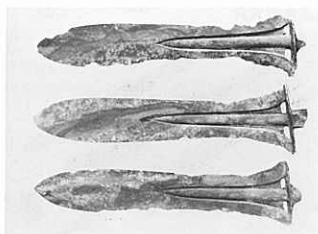


素環頭太刀 長さ 51.2cm 弥生時代後期 佐賀県神埼郡東脊振村



銅矛 長さ80.2cm 弥生時代後期
佐賀県武雄市橘町玉江

この銅矛は水田中より単独に出土したものである。細形の銅剣・銅矛・銅戈はその殆どが墓地から出土するが、この種の大型の矛は墓地以外のところから出土することが多く、死者への副葬品としてよりも祭祀的な色彩が強くなる。



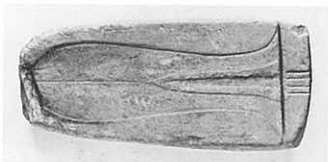
銅戈 長さ 31.2cm (中央) 弥生時代後期
福岡県春日市原町

戈は茎と直角に柄を取り付けた武器の一つであったが、我が国で作られた銅戈は身が扁平で幅広くなり茎も小さくなって武器としての本来の機能を失って祭祀化していく。

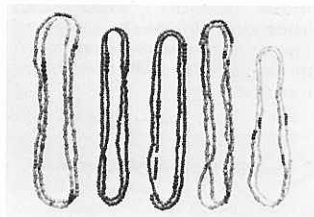


銅戈鑄型 (重要文化財) 長さ 51cm 弥生時代後期
福岡県前原町三雲

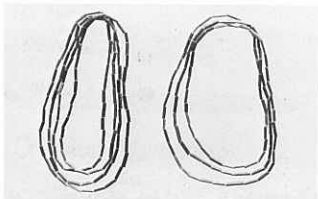
砂岩に製品の片面を彫りこんだ銅戈の鑄型である。これを二つ合わせて固定し、その中に溶けた銅を流しこむ。これは幾度か鑄型に利用されたらしく戈型の部分が黒く変化している。



銅戈鑄型 (重要文化財) 長さ 47.5cm 弥生時代後期
福岡県春日市大南



ガラス小玉・管玉 弥生時代後期



佐賀県神埼郡東脊振村(二塚山遺跡)

ガラスは弥生時代に大陸より伝えられたもので、縄文時代には知られていない材質であった。色は紺色または青色で、装身具として用いられたが、その成分は分析の結果アルカリ石灰ガラス(ソーダガラス)であることがわかった。



ガラスあがたま勾玉
長さ 5.3cm
弥生時代中期
福岡県春日市須玖



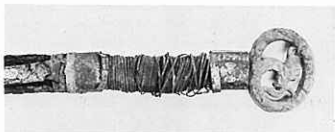
管玉 丸玉 勾玉
勾玉 長さ 3.3cm 古墳時代中期
佐賀県佐賀郡大和町 高畑古墳



三角縁三神三獣獣鏡

面径 21.1cm 古墳時代中期 佐賀県伊万里市二里町
邪馬台国の女王卑弥呼が景初3年(239)に魏の国に使
いを出し、もらった鏡がこの種のものである。

それは、やがて日本製鏡の手本となって同じような鏡
が鋳造され各地の首長に分け与えられた。この写真の鏡
もその一つであって、地方の首長が大和政権のもとに統
合されてゆく姿をしめしている。



環頭太刀 長さ 90cm 古墳時代後期
福岡県八女郡広川町

柄の頭部は龍頭をあらわし、柄には銀の葛籠くわらごがされて
いる。鞘の外側には帯状の銀銅板二枚で飾っていて、太
刀の装具としては優れたものである。



五鈴鏡 (福岡県重要文化財)

面径 9.2cm 古墳時代後期 福岡県浮羽郡浮羽町朝田

五鈴鏡は銅鏡の縁に五箇の鈴をつけているのでこう称
されており、関東・中部地方では発見例が多いが九州地
方では稀である。これは古墳時代後期に作られた我国独
特の鏡である。

年報正誤表

昭和54年5月31日刊行の佐賀県立博物館年報第9号のうち、下記のとおりあやまりがありましたのでお詫び申し上げますとともにご訂正をお願いします。

	誤	正
8頁29行目	茶室5週年茶会費	茶室5周年茶会費
54頁14行目	坐 禪 婦	髪を梳る禪婦
56頁3行目	ムルカヂユウ	ムルカヂユク
72頁32行目	中黒 重利作	中里 重利作
73頁4行目	中黒 無庵作	中里 無庵作
73頁16行目	江口 正美作	江口 勝美作

寄贈資料の追加 (55頁の1行目の上)

「薩南雪の日」	田村 一男	1	油彩・画布 145.5×89	東京都	田村 一男
(69頁の25行目と26行目の間)					
「岡田三郎助作品図録」	田村 一男	11	株式会社 便利堂	東京都	田村 一男

博物館日誌 (52.2.1～7.31)

2月4日	「勤労者美術展」開場 (8日まで総観覧者数 1,598名)	5月27日	常設展「佐賀県の歴史と文化展」開場 (7月1日まで総観覧者数 1,096名)「九州アート・ナウ展」開場 (6月7日まで総観覧者数961名)
2月20日	「佐賀大学卒業制作展」開場 (23日まで総観覧者数 607名)	6月14日	「佐賀美術協会展」開場 (24日まで総観覧者数 3,461名)
3月3日	「地下の遺宝展」開場 (25日まで総観覧者数 3,933名)	6月27日	「二科会佐賀県支部展」開場 (7月1日まで総観覧者数 1,056名)
	「地下の遺宝展」記念講演会 「発掘調査の成果と課題」 講師・北九州市立歴史博物館 主幹 小田富士雄氏	7月2日	岡田三郎助展準備のため臨時休館 (6日まで)
		7月7日	「岡田三郎助展」開場 (29日まで総観覧者数 30,309名)
3月12日	県政バス50名来館		「岡田三郎助展」記念講演会
3月31日	昭和53年度後期常設展「佐賀県の歴史と文化展」終了 (総観覧者数 4,039名)		「明治末期における岡田三郎助」 講師 石橋美術館長 岸田勉氏
4月1日	職員人事異動	7月10日	武漢曲技団来館
	常設展「佐賀県の歴史と文化展」開場 (22日まで総観覧者数 717名)	7月14日	「岡田三郎助展」記念講演会 「岡田三郎助の芸術」 講師 佐賀大学教授 副島三喜男氏
4月4日	「緑光会展・親子スケッチ会作品展」開場 (8日まで総観覧者数 741名)	7月19日	開館以来入館者百万人を超え百万人目の入館者に対し記念品贈呈。
4月23日	スペイン美術展準備のため臨時休館 (27日まで)	7月21日	「岡田三郎助展」記念講演会 「画人・岡田三郎助」 講師 群馬県立近代美術館長 岡昇三郎氏
4月28日	「スペイン美術展」開場 (5月20日まで総観覧者数 4,056名)	7月23日	第一回博物館協議会
5月1日	職員人事異動	7月30日	七夕展・常設展準備のため臨時休館 (8月3日まで)
5月21日	常設展・アートナウ展準備のため臨時休館 (26日まで)		

職員人事異動

昭和54年5月1日付

- 転入 学芸課普及係主事武藤いく代 (秘書広報課主事から)
- 転出 学芸課普及係主事鶴丸敦子 (交通安全対策室主事へ)

博物館報	第 45 号
発行年月日	昭和 54 年 9 月 1 日
編 集	大 塚 正 道
発 行	佐賀市内 1 丁目15-23
	佐賀県立博物館
印 刷	佐賀印刷社